

「類義語その6 と時制 3」

英語の日常生活でのちょっとした話題として、ファーストフード店やスタバなどで何かを購入した場合に、日本では「店内でお召し上がりですか？お持ち帰りですか？」と聞かれ、テイクアウトで持ち帰りを表現しますが、英語では、“Here or to go?” と聞かれ、持ち帰りの場合は、“(for) To go.” となります。日本語の丁寧語に比較すると非常にシンプルな表現です。

また、Grocery Store (食料品店で日本のスーパーマーケットに相当)で買い物をして精算を済ますと、“Paper or plastic?”と聞かれます。これは、買い物袋 (レジ袋) として紙袋かプラスチック袋 (日本ではこれだけかと思えます) を聞かれます。“Paper, please.”と答えると、結構厚めの紙袋に品物を入れてくれるか紙袋を渡してくれます。最近では変わってきているかと思いますが、さすがに消費大国のアメリカでは、様々なところで紙が多く消費されていて、公共のトイレでも紙タオルが置かれており、日本のようにハンカチを持ち歩く習慣がありませんでした。

他にも日本では無いかなと思えるものとして rain check があります。これは、安売りのセールス品などを買いに行き、売り切れていた場合に店から後日入荷後にセールス価格で購入できるクーポンのような物です。元々は、スポーツ観戦で天候により順延や中断した場合に、再戦の観戦チケットを意味していましたが、小売店でも雨などの天候に関わらないのですが、同様な意味で使われています。

もう 1 点雑談ですが、先日、何かのニュースで日本がビザなしで渡航できる国数が世界で 1 位になったと聞いたので、調べて見ました。“Henly & Partners Passport Index” (<https://www.henleypassportindex.com/passport>) に記載されていました。日本はシンガポールと同数で世界 1 位となり 180 カ国へ VISA free で入国できることになったようです。ビザが必要 (VISA required) な国数は 45 カ国。ん？合計すると 225 カ国となってしまうけど、現在の世界における国数っていくつだろう？との疑問が湧いてきました。

世界の国の数は、その定義で色々あるので、いくつかの例を比較のためリストします。

- ・日本の外務省：196 (海外 195 カ国と日本。この中には台湾、パレスチナ、北朝鮮は含まれていない)
- ・国連加盟国：193 (外務省との違いは、バチカン、コソボ、ニウエ、クックは未加盟で、北朝鮮は加盟)
- ・IOC 加盟国：204 の国と地域 (国際オリンピック委員会は、国際機関ではなく、NGO の NPO です)
- ・Henly & Partners: 225 (IATA 情報と追加情報から定義している模様)
- ・ISO3166 国名コード：249 (国名コードの世界標準、日本では、JIS X 0304 として標準化)
- ・Traveler’s Century Club: 327 (2018/1/1 時点での世界の国と地域の定義数)

国家として認められるか否かはその国にとっては重要な問題だと思えますが、国家や国際機関や民間団体によって国または地域として認められるまたは認識される条件がこれほど異なっていて、世界情勢の一端を物語っているなと感じます。

外務省の HP からは、2017 年 7 月時点の情報が最新ですが、「68 の国・地域へのビザ免除措置を実施」となっていましたので、これら 68 カ国・地域の人々が日本へ商用・会議・観光・訪問の短期滞在で入国する際にビザ不要となっています。ビザ免除措置は二国間で相互に対応していると思っていたのですが、一方向の場合もあり日本人が相手国に短期滞在の場合にビザ免除が適用され、相手国の人々が日本訪問の際にはビザが必要となることもあるようです。昨年 7 月の情報しかないなので、最新情報でないことによる差異の可能性もあります。

「始める、始まる」の意味の BEGIN, START, COMMENCE, INITIATE, LAUNCH

begin と start は、内容によってはどちらでも使える場合がありますが、意味的には、その反意語 (antonyms) から違いがわかるかと思えます。begin - end, start - stop の関係となることから、begin は、ある事・活動などを始める (一歩踏み出すイメージ) など開始する事に焦点されています。start は、今まで止まっていたものが動き始める動きが含まれるニュアンスです。beginner は、初心者となりますが、starter は、マラソンのピストルで競技の開始を告げる人や、車のエンジンを始動する物となります。

We begin to collect donations. 「寄付集めを始めます。」

We’ll start at 7:00 a.m. to avoid traffic jam. 「渋滞を避けるため、7 時に出発しましょう。」

次の文では、begin でも start でもどちらでも使えます。

Let’s begin (start) reading this book. 「さあ、この本を読み始めましょう。」

He began (started) working here a month ago. 「彼は、1ヶ月前からここで働き始めた。」

911 のアメリカ同時テロの際に、UA93 便の乗客たちがテロリストに立ち向かう時に “Are you guys ready? Let’s

roll!” 「みんな、用意はいいか？ とりかかろうぜ！」で有名になりましたが、俗語であった Let's roll 「とりかかろう、始めよう」がテロと戦うスローガンにもなっています。

commence は、意味合い的には begin とほぼ同じ意味ですが、より格式張った文章での書き言葉となります。この antonym は、end ではなく complete となります。ところで、アメリカの高校や大学などの卒業式や学位授与式は、graduation ではなく commencement と呼ばれることがあります。日本では、終了を意味する卒業ですが、これから次の新しいことへの始まりを名称としても表しているのは面白いと感じます。

initiate は、ある過程に入る第一歩の意味合いで計画や事業など責任を持って始める場合などで使います。それ以外では、(人)を入会させるとか、(人)に手ほどきする、授けるなどの意味があります。

We initiated a reform in the management system. 「管理システムの改革に着手した。」

launch は、ロケットの打ち上げ、ミサイルの発射、船の進水、などでも使われますが、始める、開始するとの意味として、調査・販売・キャンペーンなどの活動を開始する場合に使われます。

We'll launch a new project. 「新プロジェクトを開始する。」

時制 (tense) について 3

時制の例外について、前回の続きとして確定した未来の予定には現在形を用いたり、近い未来の予定には現在進行形を用いたりすることについて少し。

I will leave Japan next month. 「来月、日本を発つつもりです。」

と未来の予定を未来形で言いますが、例えば、もう飛行機の子ケットを購入していて決まっている予定については

I leave Japan next week. 「来週、日本を発ちます。」と未来のことであっても現在形が使えます。または、近い未来にこれからするような現在動きがあるような場合に現在進行形で表すこともできます。近い未来の程度は、主観的に決まるものなので、話し手によって変わるかと思いますが。

I am leaving Japan next week. 「来週、日本を発つ予定です。」

今回は、文法解説が短いですが、ここまでにします。来月は関係代名詞か不定詞の用法についてまとめようかと思っています。